

⑤ 避難行動支援分科会

分科会のキャッチフレーズ・スローガン

みんなが みんなの防災応援団！

私たちが目指す社会

避難は、一人でがんばるものではありません

声をかけ合い、支え合い、いっしょに逃げる。

1. 自分の避難を考える

いつ、どこへ、
どうやって逃げる？

- 自分の避難ストーリーをつくる→ハザードマップで逃げる必要があるか、どこ逃げるか決めておく
- 逃げるタイミングを決める→キックルや役所の避難情報で早め、早めを心掛けよう
- 持ち出す薬や大切な物を確認
- 家族や身近な人に伝えておく

2. ふだんからつながる

顔と名前を知り、
助けを頼める関係に

- あいさつから始める
- 困ること、手伝えることを話す
- 外国人とも分かり合う機会を持つ
- だれもが参加しやすい防災訓練をやってみる→「ひなんさんぽ」で個別避難計画づくり

3. いっしょに逃げる

声をかけ、手を取り、
安全に避難する

- 声をかけることが大事な避難支援→心配な人に声をかけよう
- 無理のない方法で手助けする→自分が手助けできないときはできる人に頼もう
- 避難路の危ない場所をよける
- 訓練で本当に逃げられるか試す→安全な避難路が命と地域の未来を守る

住まい・避難路・地域のつながりを、一体で備える

安全な住まい

安全な避難路

避難場所

次世代を担う若者へ

「逃げてください」から、
「誰もが安心して逃げられる地域をつくる」防災へ東北大学災害科学国際研究所
准教授 佐藤 翔輔氏

「助ける・助けられる」という緊張感のある関係ではなく、普段の暮らしの延長線上でお互いの顔や歩くペースを知っておく——この心地よい距離感こそが、災害時に一番頼りになる力につながります！

個別避難計画は支援者が要支援者を助ける計画に見えますが、違います。平時も災害時も助け合える地域を一緒に作る計画です。ぜひ「ひなんさんぽ」から一歩を踏み出しましょう。

跡見学園女子大学
教授 鍵屋 一氏

参加団体 ※順不同

鳥取県中部防災士会／(大)富山大学 芸術文化学系 河原研究室／国土交通省／災害弱者安心ネットワーク高松／広島市防災士ネットワーク／千葉商科大学／JANPIA／「やさしい日本語」有志の会／三柳団地2区自主防災会／(株)ゼンリン／岡山大学Aegis／電線のない街づくり支援ネットワーク／(一社)グラフィックサービス工業会／建設コンサルタンツ協会中国本部防災委員会